

マルソーのこれまでの取り組み

大正2年（1913年）に新潟県加茂市内において渡邊運送部として、1頭の馬車から運送業を創業し、昭和60年12月に現在の三条市月岡に本社を移転し、平成16年9月には、それまでの社名である丸惣運送株式会社からマルソー株式会社に社名変更し、物流事業を中心に様々なサービスを提供する事業を展開する会社となりました。

現在では荷主企業に代わって第三者の企業が、最も効率的な物流戦略の企画立案や物流システムの構築提案を行い、かつ、それを効果的に受託し、実行する3PL（サード・パーティ・ロジテックス）を始め、貨物輸送、倉庫保管、荷役作業、流通加工、引越し、重量物・機械輸送据え付け、物流コンサルティングなどを行う総合物流のプロ集団として成長し、マルソー株式会社を中心としたマルソー・グループを形成し、

・車両台数グループ全体835台 従業員数(パート等を含む)グループ全体1,264人

※2022年9月20日現在

を有する会社に至っております。

そして、その成長過程においては、平成26年3月5日付けで公益社団法人全日本トラック協会が示した「新・環境基本行動計画」に掲げられたトラック業界を取り巻く環境問題へも真摯に取り組む決意をし、平成29年2月以降、ホームページ上において、マルソーが取り組む「環境への取組方針」を公表、事業活動における様々な省資源化・省エネルギー化・廃棄物の削減等、環境に配慮した活動を行って来ました。

人・社会・自然との創造的な関係づくりを通して、万物に感謝し活かすことを基本に、物流を通して地域社会に貢献し、個人・会社ともども物心両面から繁栄することを経営理念（環境理念）としています。

時代は『カーボンニュートラル』へ

地球温暖化をもたらす「温室効果ガス」の排出をできるだけ削減し、削減できなかった分は植林による吸収などで差し引いて全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を2050年に目指すことを日本政府が宣言しました。

また、2030年度の温室効果ガスの排出削減目標を国際社会に向けて表明しており、地域温暖化対策に社会全体で関わることを求められています。

全日本トラック協会が、無理せずにできそうなことから取り組みを始め、2030年度を目標にトラック運送業界全体で「カーボンニュートラル」を目指すため、『トラック運送業界の環境ビジョン2030』を策定したことを受け、マルソーとしてもこれまでの環境対策を検証し、新たにマルソーが取り組む環境ビジョン2030を定め、マルソーグループとしても2050年までのカーボンニュートラルを目指すことにしました。

『マルソー環境ビジョン2030』で取組むこと

マルソーが取組む環境ビジョン2030では、3段階のメニューに分けて、それぞれ具体的な行動例を示します。

3段階のうち **1** の取組みに重点を置きつつ、**2** の取組み、**3** の取組みについても積極的に実践し、環境対策を図りたいと考えております。

1

「はこぶ」でCO₂削減

運送事業を推進するうえで取組む
地球温暖化対策メニュー

- 環境性能に優れたトラックの導入
- 環エコドライブの推進
- 輸送効率化の推進 など

2

「事務所」でCO₂削減

運送事業以外で取組む
地球温暖化対策メニュー

- 事移動に係るエネルギーの削減
- 事業所等での節電
- グリーン調達の推進

3

「みんな」で環境対策

運送事業を推進するうえで
取組む1以外の
環境対策メニュー

- ゴミの削減
- 資源リサイクルの推進
- 騒音対策 など



SDGsの目標達成に向けた貢献

マルソーでは、3段階の行動メニューを実践することが、SDGs(持続可能な開発目標)の目標達成に貢献することにもつながっていると考えています。

マルソーが取組む『環境ビジョン2030』で策定する行動メニューが、どのSDGsの目標に繋がっているのかを以下に示します。

1 運送事業を推進するうえで取組む地球温暖化対策メニュー

行動メニュー		マルソーの取組み内容	貢献できるSDGsゴール
1	環境性能に優れた次世代トラックの導入	● 環境性能に優れた次世代トラックの計画的導入	     
2	エコドライブの推進	● 「エコドライブ10のすすめ」の実施 ● エコドライブに関する社内教育・講習会等への参加 ● 「エコドライブ実施中」ステッカーの貼付 ● エコタイヤの導入	    
3	アイドリング・ストップの推進	● アイドリング・ストップの実施 ● アイドリング・ストップ支援機器の導入 ● 「アイドリング・ストップ宣言」ステッカーの貼付	  
4	輸送効率化の推進	● 共同物流センターの拡充と効果的な運用 ● 共同配送の継続 ● JTPによるパートナーの更なる拡大 ● T-reXシステムの改良と進化	   
5	整備点検の徹底	● タイヤ空気圧などの整備点検の徹底	  



2 運送事業以外で取組む地球温暖化対策メニュー

行動メニュー		マルソーの取組み内容	貢献できるSDGsゴール
1	事業所・営業所などでの節電	● 事業所・車庫・倉庫等でのこまめな節電 ● 施設の照明のLED化、省エネ化 ● 省エネ型事務機器等の使用 ● 適正温度での冷暖房 ● クールビスの実施	  
2	保管に係るエネルギーの削減	● 雪室倉庫の効率的運用と活性化	  
3	グリーン調達の推進	● 事業所内の備品等について、エコマーク商品等のグリーン商品の購入 ● 紙の使用量の削減	   

3 運送事業を推進するうえで1以外の環境対策メニュー

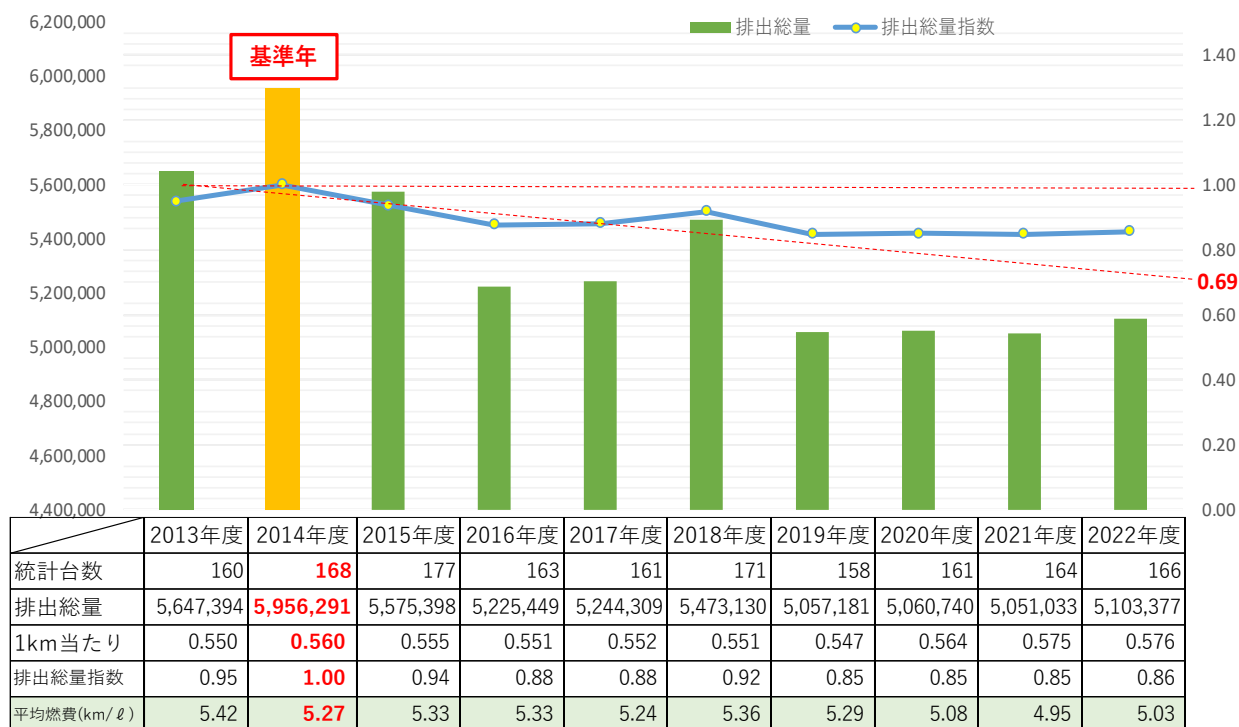
行動メニュー		マルソーの取組み内容	貢献できるSDGsゴール
1	廃棄物の削減	● 事業所ゴミ・プラスチックの削減 ● ゴミ分別の徹底 ● ゴミポイ捨て禁止運動、清掃活動の実施 ● フロン類の適正管理 ● 廃棄物・廃油の適正管理	    
2	資源リサイクルの推進	● 輸送梱包資材の繰り返し利用の推進 ● 再生タイヤ・再生パレット等の導入 廃タイヤ等のリサイクル ● 廃油のリサイクル消費 ● 不要物のリユース	     
3	騒音対策の推進	● 騒音の少ない運転の徹底 ● 静粛性能の高いタイヤの使用 ● コンビニ・路上等での仮眠・休憩の抑止 (トラックステーション等休憩施設利用)	    
4	環境教育の推進	● 社員への環境教育の実施 ● スポーツ大会を通じた地域や子供への環境広報の実施と主催者等としての啓発活動の推進	    
5	社会貢献の取組み推進	● SDGsを意識した事業活動の推進 ● グリーン経営認証の認証取得	    

マルソー『環境ビジョン2030』で目指すこと

メイン目標

2030年のCO₂排出総量を、2014年度比で31%削減

マルソー保有車両の過去10年分のCO₂排出総量及びCO₂排出総量指数



統計台数は、明らかに走行料や燃料数値が異常と認められる台数を統計外とした台数

排出総量は、CO₂排出量簡易算定ツールから算出された各年度におけるCO₂排出総量の合計値 (kg-CO₂)

排出総量指数は、2014年を1とした場合の増減指数

1km当りは、CO₂排出量簡易算定ツールから算出された1台当たりの1km走行時のCO₂排出量 (kg-CO₂/km)

マルソーでは、ディーゼル車排出ガス規制に伴い、これまでも計画的な車両入替を進め、CO₂排出総量の抑制に努めて来ました。

これからも環境性能に優れた次世代トラックの計画的導入に努めながら、「はこぶでCO₂削減」のメイン目標として、2030年のCO₂排出総量を2014年度比で31%削減することを目指します。

「1 km当たりのCO₂排出量」を意識した行動

CO₂排出総量を抑制するためには、1 km当たりのCO₂排出量を削減する必要があり、要は1台1台の燃費性能を向上させる必要もあると考えています。エコドライブやアイドリングストップを意識した行動を行うことで、1 km当たりのCO₂排出量を削減することを目指します。

サブ目標

3つの《サブ目標》達成に向けて取組む

「マルソーが取組む環境ビジョン2030」では、トラック運送業界と連動した活動も想定し、「メイン目標」のもとに3つの《サブ目標》を設定します。

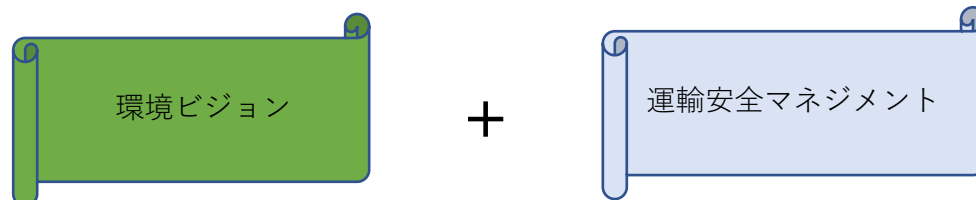
サブ目標 1

車両総重量8t以下の車両について、
2030年における電動車導入を積極的に推進することを目指す。

※ 「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」（令和3年6月）において「商用車における目標」として、車両総重量8t以下の小型の車について、2030年までに新車販売で電動車20～30%を目指すことを掲げていることから、トラック運送業界における導入状況等を把握し、マルソーにおいても電動車導入を積極的に推進することを目指します。

サブ目標 2

CO₂排出総量、1km当たりのCO₂排出原単位の適正把握と管理に努め、毎年度策定する環境ビジョンにおいて、検証、計画変更を踏まえ、事業用トラック、社有車共に「前年度燃費1%向上」を目標とする。



サブ目標 3

全日本トラック協会と新潟県トラック協会並びに関係団体が取組む環境対策に併せて、環境ビジョンにおいて「行動月間」を設定し、マルソーとして出来る環境対策の積極的な推進を図る。

環境月間	6月	緑化、省エネ、ゴミ減量、SDGsなど環境保全に係ることすべてを対象とする。
エコドライブ推進月間	11月 4月	アイドリングストップなどエコドライブにつながる活動を対象とする。